

No	14	分類	2-(1)-ア	資料名	ぼくって たからもの	学年	1・2年	領域	道徳	3-(1)
----	----	----	---------	-----	------------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 家族から愛され大切にされてきた自分に気づき、自分を大切にすることができる。
- 今ある自分には、温かく見守り励ましてくれる家族や周囲の人々の存在があることに気づき、感謝の気持ちをもとうとする。

2 趣旨

- 低学年の児童にとってもっとも身近な家族の愛情にふれることで、自分が大切にされているということを実感させる。
- 児童に、自分の存在の大切さを気づかせるとともに、安心感をもたせ、自尊感情を高める。

3 配慮事項

- 一人親家庭や両親のいない家庭など、さまざまな家庭状況に配慮して指導する。
- 生活科の目標「(3) 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにする。」等と関連させて指導してもよい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 自分の「たからもの」について発表する。	・ 教師自身の宝物（手紙、写真など）を用意し、具体物を見せて導入の工夫をおこなうと効果的である。
みんなの「たからもの」は、何ですか。なぜ「たからもの」になったのですか。	
2 資料を読み、まさおの気持ち考える。	・ 児童が発表した宝物と、その理由を板書しながら、物そのものの価値に加えて、人とのつながりの中で価値が生まれていることに気づかせたい。
「ぼくって、ほんとうにたからもの」と聞いたのはなぜでしょう。	
3 おかあさんがまさおを抱きしめた意味について話し合う。	・ お母さんのいつもの言葉から、まさおがお母さんにどう思われていると思っていたかについてを話し合う。
	・ 否定的な意見も予想されるが、そのまま発表させ、「まとめ」でそのしかる言葉の背後にある愛情に気づかせる。
どうして、おかあさんはまさおをだきしめたのでしょうか。	
	・ まさおの疑問に対して、抱きしめることで心を伝えようとしたおかあさんの思いに気づかせる。
	・ どの児童にも自分が「たからもの」であることに気づかせる。